

『おじいちゃんは心臓君、お母さんは血液さん』

魚瀬 嵩仁

僕は最近考えた。「僕の体の中はどんなになっているんだろう」「僕はだれのおかげで毎日生きていられるんだろう」、そして僕は考えついた。「体の中のみんな」のおかげだということに。僕はその中でも心臓と血液が一番大切だと思った。なぜなら、お母さんのおなかの中にいる時から今まで、僕が生きてきた間ずっと一秒も休まずに働き続けてくれているからだ。

心臓は一分間に六十回から七十回拍動している。僕は計算してみたくなった。僕は子供だから一分間に七十回で計算してみた。一時間で四千二百回、一日で十万八百回、一月で三百六万六千回、一年で三千六百七十九万二千回。もうすぐ僕は九歳になるから、おなかの中にいた十ヶ月分を合わせてみると、今までだけでも、三億六千七百七十八万八千回も心臓は僕のために働き続けてくれていることになる。

血液は体に必要な酸素や養分を全身に運んで、二酸化炭素やアンモニアなどの不要物を

とかして運んでいる。まるで、宅急便屋さんが荷物を届けてくれて、ゴミ収集車がゴミを回収してくれるような仕組みだ。なるほど、血液も休まずに働き続けてくれているんだ。

僕の家族は三人家族。おじいちゃんは、心臓君。家族のために毎日仕事をがんばってくれている。毎朝六時に起きて、電車に乗って仕事に行く。休みの日は庭の草むしりもしてくれている。夜、新聞の切り抜きをやっていて面白い記事があったら僕に教えてくれたりする。もう七十二歳だけど、おじいちゃんは僕の家の大動脈だ。

お母さんは、血液さん。赤血球は酸素を運ぶ—お母さんは毎日おいしいご飯を作ってくれる。白血球は細菌をやっつける—お母さんはあぶないことから僕を守ってくれる。血小板は血液を固めて出血を止める—僕が病気やけがをした時にすぐにとんできて手当てをしてくれる。血しよは二酸化炭素・栄養分・不要物をとかして運ぶ—お母さんは僕がいけないことをした時はおこってくれて、よいことをした時はたくさんほめてくれる。僕のために毎日一生けんめいのお母さん、大好きだよ。

心臓も血液もおじいちゃんもお母さんも、いつも僕のために働いて、僕を守ってくれてありがとう。僕はもともと自分を大切にしました。これからもがんばります。いつか僕が心臓君になるからね、楽しみにまっていますね。